

新潟県内の公共交通の現状と課題について

資 料 2 目 次

	頁
資料2-1 新潟県内の交通ネットワーク……………	1
資料2-2 路線バスの現状について……………	2
資料2-3 離島航路の現状について……………	4
資料2-4 航空路の現状について……………	5
資料2-5 鉄道の現状について ……………	6

新潟県内の交通ネットワーク

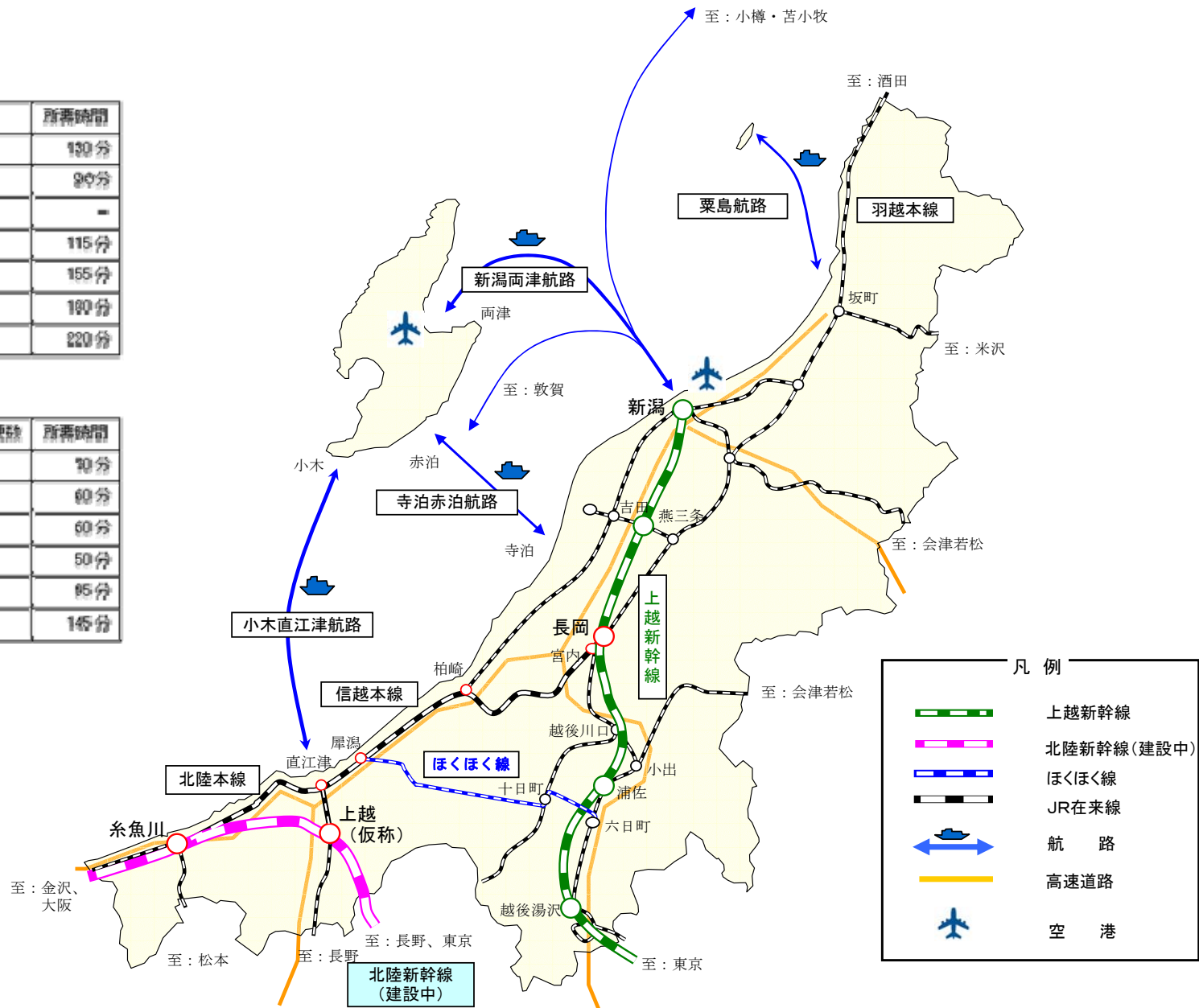
定期航空路線(平成21年7月現在)

国際線

行き先	運行日	所要時間
JAL 羽田線	月・金	130分
ウラン航空	日・木	90分
イルカーク	運休中	-
ソウル	毎日運航	115分
上海	水・土	155分
ハワイ	日・月・水・金	180分
グアム	火・土	220分

国内線

行き先	一日の運航便数	所要時間
札幌	3便	70分
大塚(伊丹)	10便	60分
名古屋(中部国際)	21便	60分
名古屋(中部)	3便	50分
福岡	1便	95分
沖縄	1便	145分

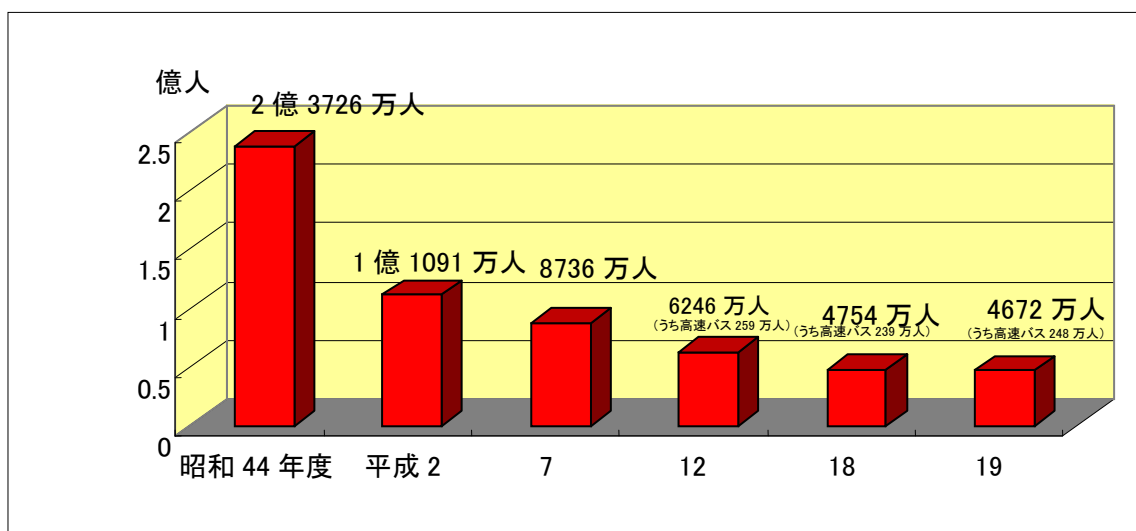


路線バスの現状について

1. 利用者数

- 平成 19 年度の利用者数(高速バス利用者数を含む)は 4,672 万人で、ピーク時(昭和 44 年度)の約 2 割となっている。
- 利用者数は平成 13 年度から 19 年度の間に 2 割以上減少しており、減少傾向は近年も続いている。

グラフ 1 利用者数の推移



(資料) 「北陸信越交通・運輸統計年鑑」(北陸信越運輸局)

- 注 1 利用者数は、民間の乗合バス利用者の数。ただし、道路運送法の改正に伴い、平成 18 年度以降の実績からは、廃止代替バス(市町村が自ら運行するものを除く)の利用者数も含む。
- 2 平成 9 年度以前は、高速バス利用者数が公表されていない
- 3 昭和 44 年度は、バスの利用者がピークを迎えた年

表 1 近年の利用者数の推移

(単位：千人)

	H13 年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19
乗車人員 (指数)	59,205 (100)	52,911 (89.4)	51,376 (86.8)	47,941 (81.0)	45,723 (77.2)	47,535 (80.3)	46,719 (78.9)

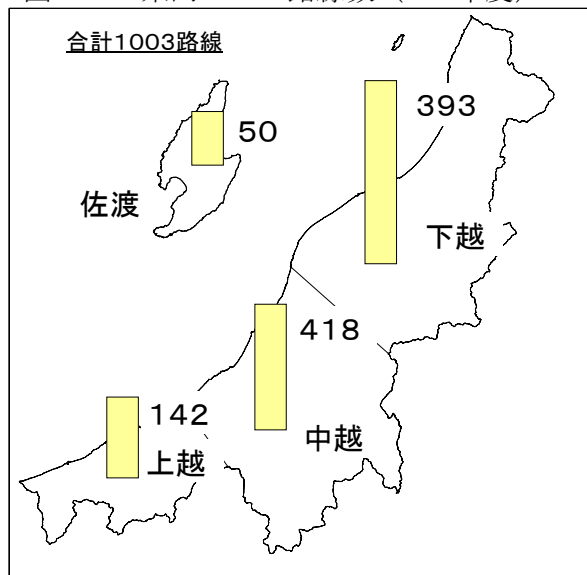
(資料) 同上

- 注 1 利用者数は、高速バスの利用者数を含む。
- 2 平成 18 年度以降は、廃止代替バス(市町村が自ら運行するものを除く)の利用者数も含む。

2. 路線数

- 県内のバス路線数は 1,003 路線(平成 19 年度)となっている。
- 平成 13 年度から 19 年度の間▲15%減少している。
- 平成 13 年度から 17 年度の間の利用者数の減少は▲24%だが、路線数は、▲12%の減少であり、1 路線当たりの利用者数が減少している。

図 1 県内のバス路線数 (H19 年度)



(資料) バス事業者への聞き取り

により交通政策課が作成 (表 2、表 3 も同じ)

注 路線数は、乗合バスと廃止代替バスの路線数の合計 (高速バスを除く)

表 2 近年の路線数の推移

	H13 年度	H14	H15	H16	H17	H18	H19
路線数 (指数)	1,180 (100)	1,197 (101.4)	1,112 (94.2)	1,035 (87.7)	1,012 (85.8)	1,000 (84.7)	1,003 (85.0)

注 路線数は、乗合バスと廃止代替バスの路線数の合計 (高速バスを除く)

表 3 乗合バスの 1 路線当たり利用者数の推移

	H13 年度	H14	H15	H16	H17
路線数(ア) (指数)	654 (100)	648 (99.1)	619 (94.6)	595 (91.0)	573 (87.6)
利用者数(イ) (千人) (指数)	57,296 (100)	50,410 (88.0)	48,985 (85.5)	45,515 (79.4)	43,326 (75.6)
1 路線・1 日当たりの利用者数 (イ/ア/年間日数)	240 人	213 人	216 人	210 人	207 人

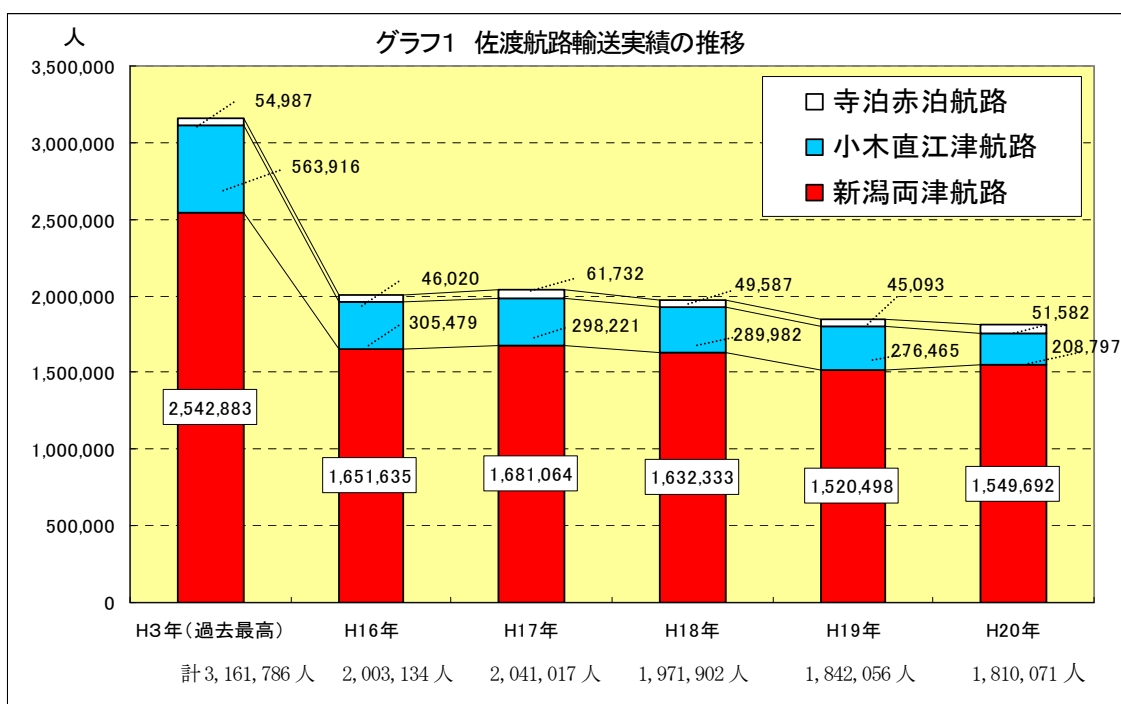
注 1 路線数は、民間バス事業者が運行する路線数 (市町村が運行又は委託運行させる路線を除く)

2 利用者数は「近年の利用者数の推移 (表 1)」から、高速バスの利用者数を除いたもの

離島航路の現状について

1. 佐渡航路の輸送実績の推移

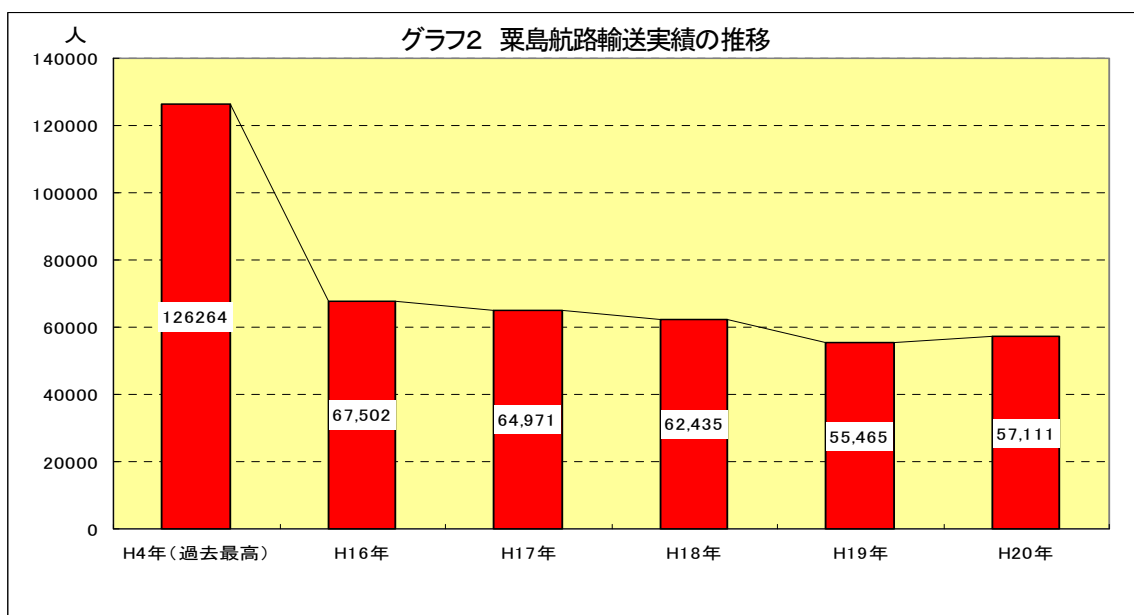
○ 平成20年の利用者数は、181万人であり、過去最高であった平成3年の57%となっている。



(資料:佐渡汽船(株)資料)

2. 粟島航路の輸送実績の推移

○ 平成20年の利用者数は、57千人であり、過去最高であった平成4年の45%となっている。

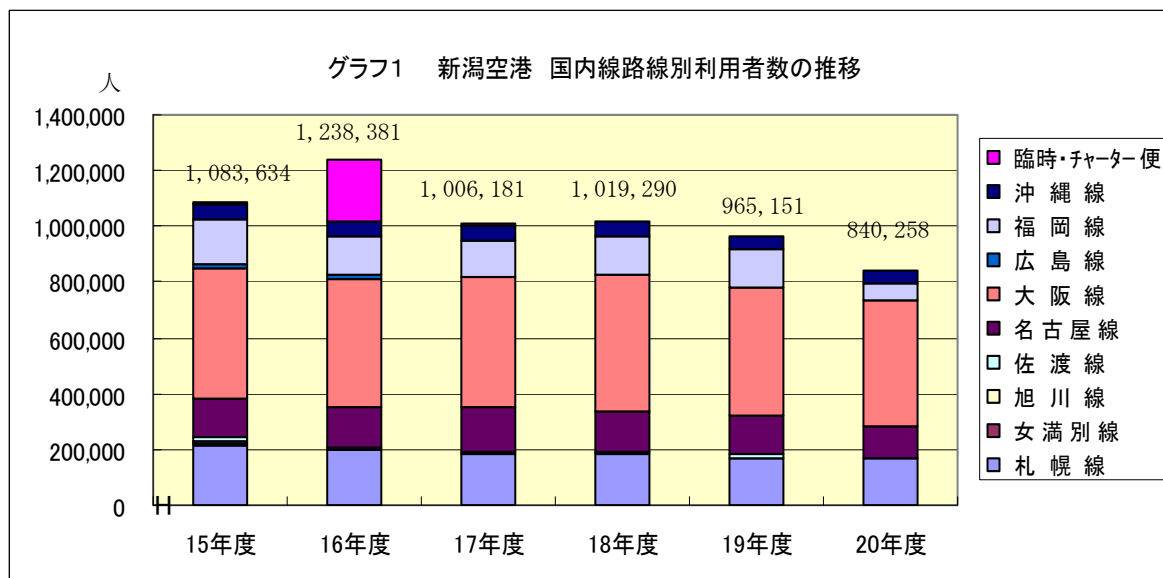


(資料:粟島汽船(株)資料)

航空路の現状について

1. 新潟空港国内線の利用状況

○ 新潟空港における国内線の利用者数は、19年度から100万人を割り込んでいる。

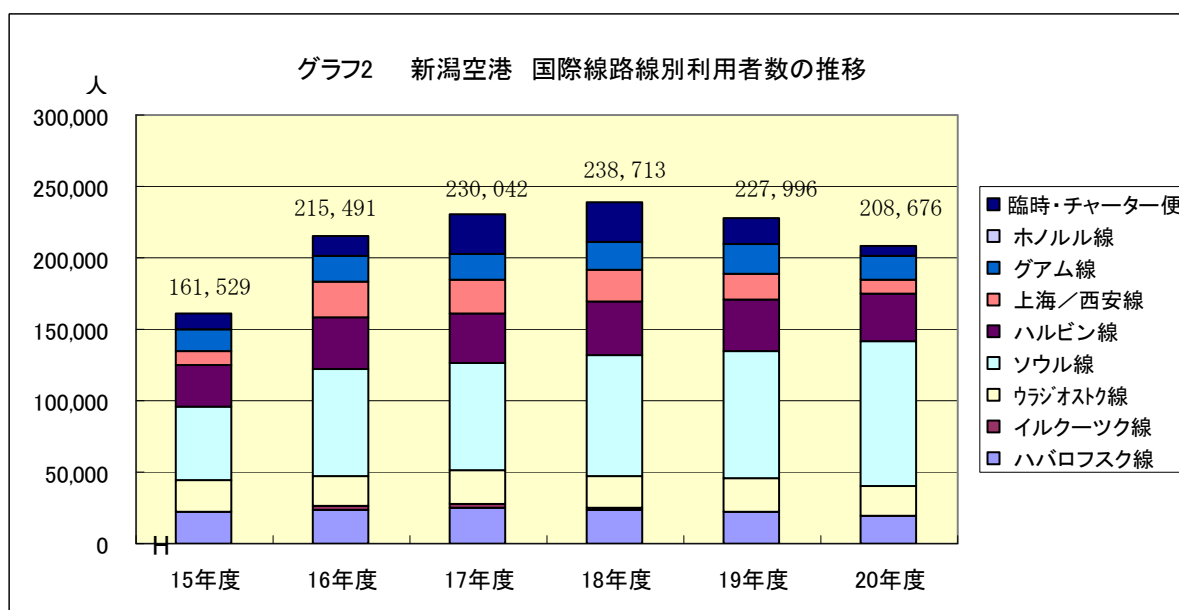


※注) 旭川線、女満別線は平成16年度から休止、佐渡線は平成20年度路線廃止、広島線は平成17年度から休止
名古屋線は、中部国際空港、小牧空港の合計数値、大阪線は、伊丹、神戸の合計の数値

資料：新潟県空港課「新潟空港の利用状況」を基に作成

2. 新潟空港国際線の利用状況

○ 新潟空港における国際線利用者数は、ここ2年連続して減少している。



※注) イルクーツク線は平成19年度から運休、ホノルル線は平成15年度から、西安線は平成19年度から休止

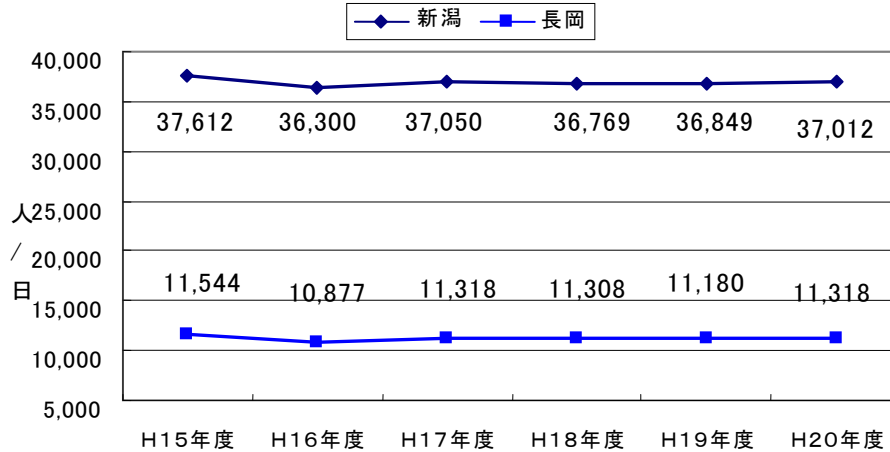
資料：新潟県空港課「新潟空港の利用状況」を基に作成

鉄道の現状について

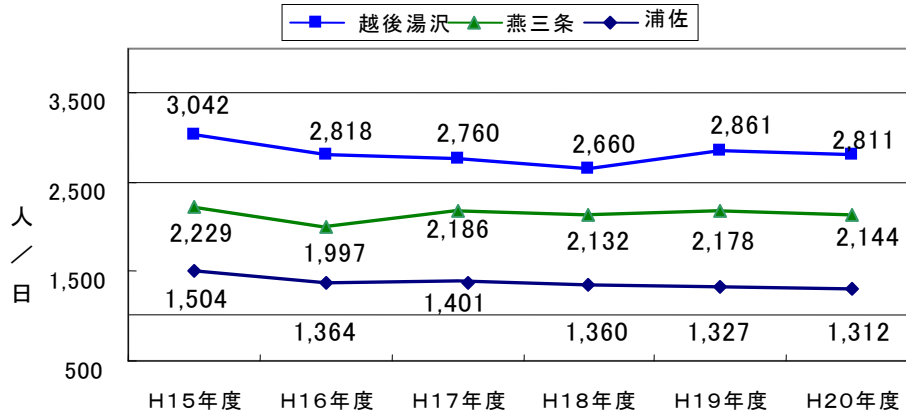
1. 新潟県内のJR主要駅乗車人数の推移

- 県内主要駅における近年の1日当たりの乗車人数は、一部の駅で大きく利用者が減少するなど、全体的に減少傾向にある。

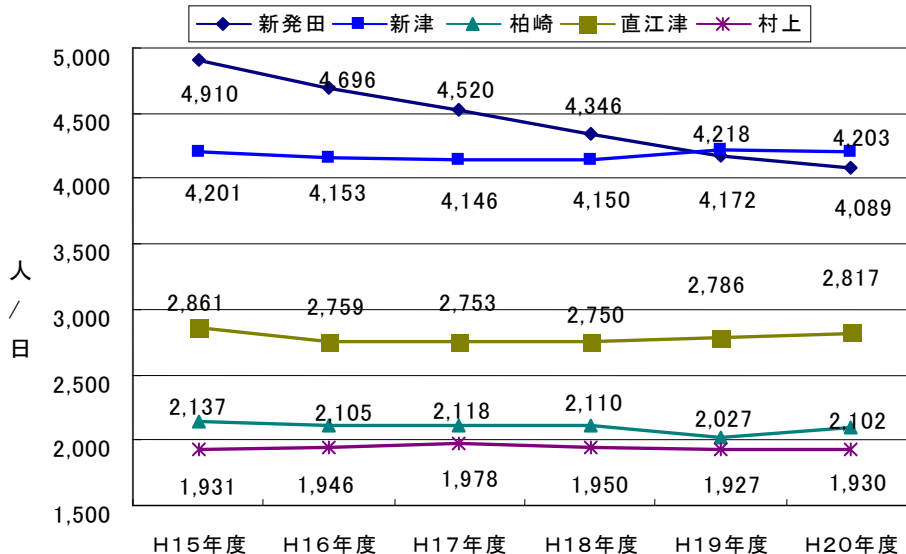
グラフ1 新潟県内JR主要駅の乗車人数の推移(新幹線駅①)



グラフ2 新潟県内JR主要駅の乗車人数の推移(新幹線駅②)



グラフ3 新潟県内のJR主要駅の乗車人数の推移(県内主要駅)

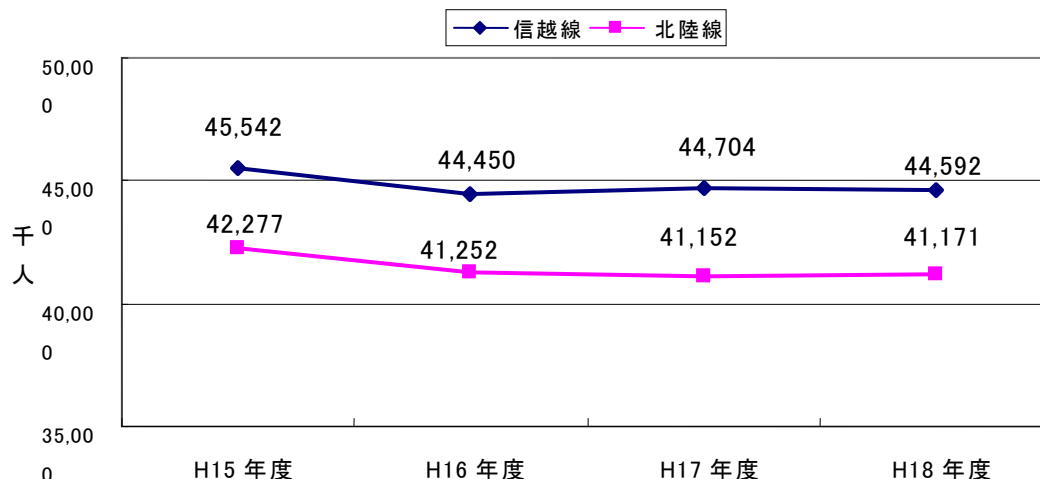


資料: JR東日本 HP 各駅の年度乗車人員(駅の改札を通過して乗車した人の1日平均の人数)

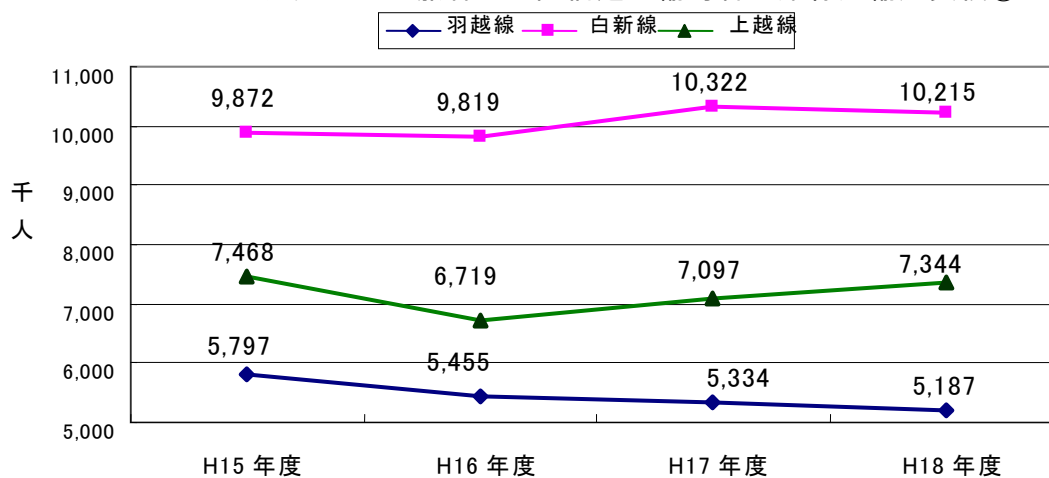
2. 北陸信越運輸局管内 路線別鉄道輸送実績

- 北陸信越運輸局管内のJR主要路線では、一部、輸送量が増加している路線がある。
- 北越急行(株)ほくほく線の普通列車は健闘している。

グラフ4 JR旅客の北陸信越運輸局管内路線別輸送実績



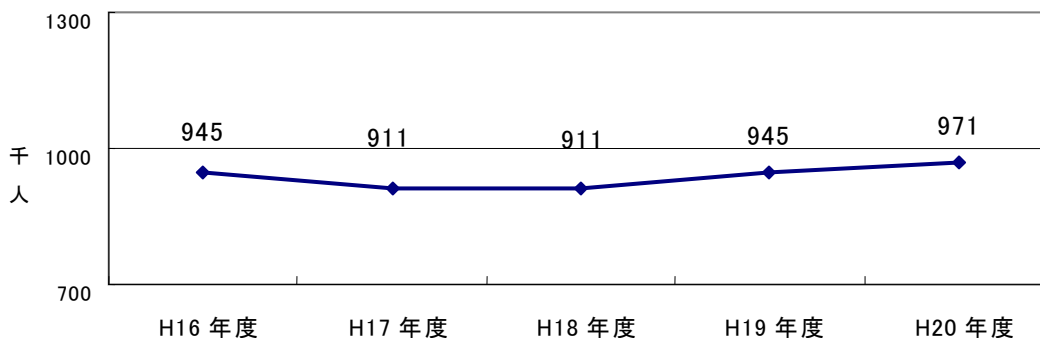
グラフ5 JR旅客の北陸信越運輸局管内路線別輸送実績②



※資料:北陸信越運輸局 平成19年度「北陸信越交通・運輸統計年鑑」

注) 数値は、各路線の北陸信越運輸局管内(新潟県、長野県、富山県、石川県)の路線全体での合計数

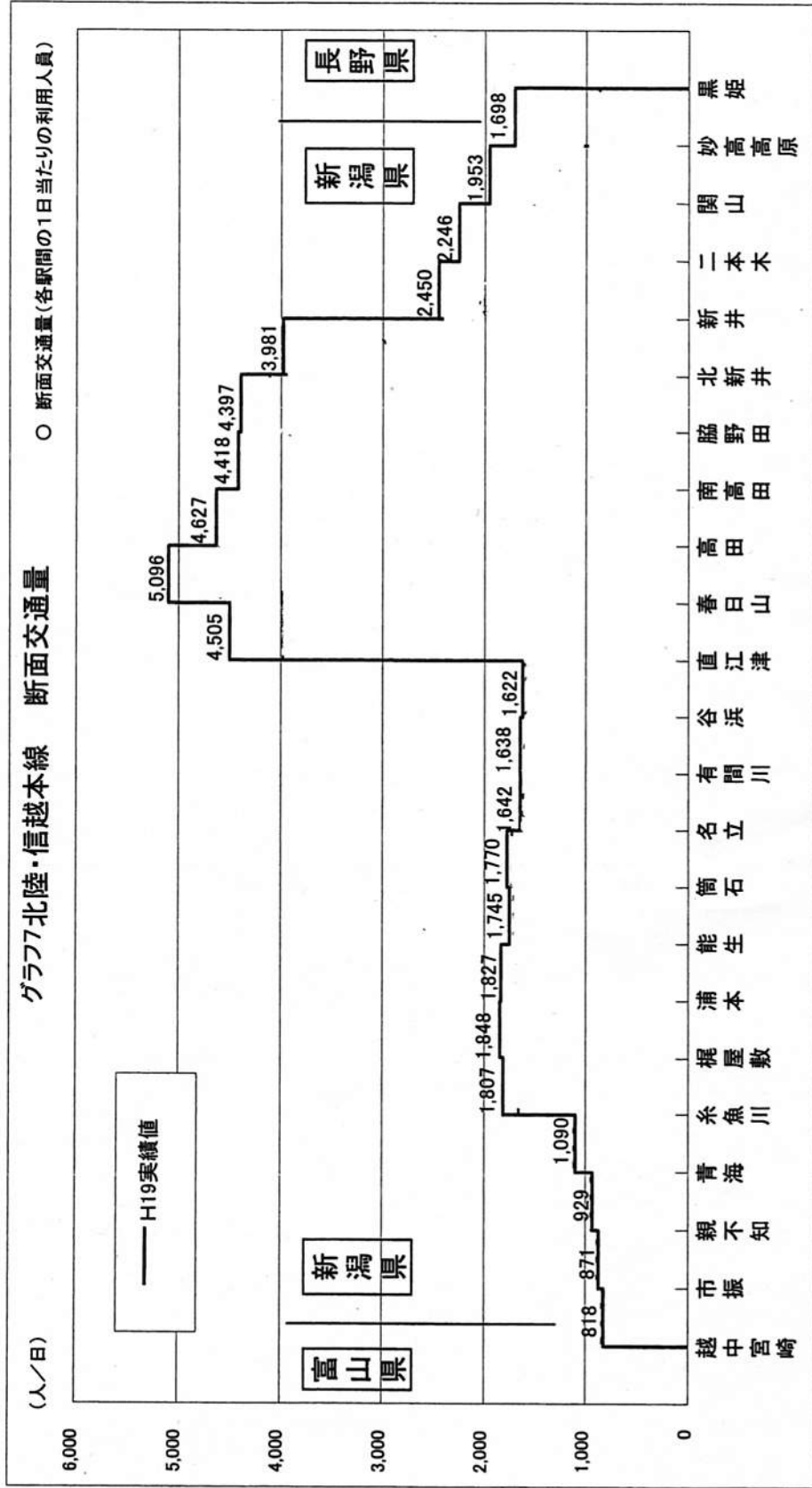
グラフ6 ほくほく線(普通列車)の輸送実績



※資料:北越急行(株)各年度の輸送概況

3. 並行在来線(信越本線・北陸本線)の現状

- JRから経営分離された後の並行在来線の経営は、厳しいものが予想される。
(※ 通常、収支均衡となるためには、4,000人/日の輸送量が必要とされている)



資料：H21年度 新潟県並行在来線開業準備協議会「並行在来線に関する旅客流動調査」報告書
注) 調査対象地域を特急で通過する利用者を除く。
特急から並行在来線に乗り換える利用者、並行在来線を利用し幹線駅へアクセスする利用者を含む。